

令和4年6月22日(火) 博物館地域説明会(きらら)

<質疑応答>

質問者①

質問:先ほどの説明で、古文書等が富士宮市のものではなく静岡県立図書館所蔵とのことですが、構想する博物館には何を展示するのですか。

回答:博物館の機能の中で、展示というのは最後の果実のようなものです。まず集めて、調査研究して、その成果を展示する。それが博物館というものです。

質問:じゃあ今成果が出ているんですね?

回答:出ています。ただ、現在は埋蔵文化財センター等にあり、展示をする施設がありません。土器だけではなく、富士宮には一万点近い古文書がありますが、それも埋蔵文化財センターに収蔵しています。

質問:あなたたちのPRが悪い。建物だけの説明でやっているじゃないですか。

回答:ですので、今こうやって基本構想の説明を軸に、ご質問に答える形でやらせていただいています。

また、古文書の類など他所が所蔵しているものを借りてくることは可能です。

ただ、博物館がないと貸してくれませんので、そのためにもやはり博物館は必要だと考えています。

質問者②

質問:かなり大きな箱物ですので、学芸員の力量が問われると思います。用意する学芸員の人数、力量などの説明をいただきたいです。

回答:現在、富士宮市に学芸員は6人います。

その中で3人は埋蔵文化財・発掘調査の担当です。富士宮市は遺跡が多く、建物を建てるとなると結構な確率で遺跡に当たってしまうことから調査ケースも多いため、ほかの市町村に比べて担当者が多くなっています。

他に歴史系の学芸員もおりますが、博物館がないために、本来行ないたい研究については、文化財保護審議会の調査の手伝いなどに終わっているのが現状です。

博物館を作るにあたっては学芸員の補強は必要だと思っておりますが、活動の内容によってかなり変わってきますので、まだ具体的に何人というところまでは詰めていません。今後検討していきます。

質問者③

質問:博物館を建てると市の負担がずっと続くことになっていきますが、どのくらいになるのか見当を知りたいです。

回答：まだ活動の詳細が決まっておらず、それによって投入する学芸員の数や必要な設備が異なります。

色々な所の事例を聞きますと、富士市では約一億円かかるそうです。

博物館もいろいろな条件があり単純に比較できないものですから、もう少し検討してみないと分らず、現段階では公式には算出できていない状況です。一億円程は要るのかなという感覚は持っています。

ただ、県内の人口10万人以上の都市では基本的に維持できていますので、財政的には維持できると考えられます。

今までかけるべき費用をかけていなかった、そういう側面も考えていかなければと思います。

質問：あと10年もすれば人口は減ってきます。

回答：ただ、文化財は減りませんので。

質問者④

質問：文化会館など既設の施設と複合する、またはもう少し街中に建設する等の検討はされたのですか。

回答：検討しました。しかし街中に建てるだけの土地が見つからない、文化会館の今ある部屋をつぶすわけにはいかない、新たに増設するにしても駐車場が無くなってしまうという問題があります。

可能性として排除した訳ではないのですが、やはり現実的には難しいと思います。

今ある建物を改装するにしても使える建物がないので、新たに建てるしかないと思っています。

今後他に使える土地が出てくれば、そこも検討していきます。

質問者⑤

質問：整備候補地について、いずれも公共のバスが通っていないような交通の便が悪いところにあるので、候補地の検討が足りていないのではないのでしょうか。

例えば、大鹿窪の近くに作るのはどうですか。

また、白糸の他にも白尾山等にも自然公園はありますが、まるで白糸に作りたいがためにやったのではないかという印象を受けます。

また、北部の子供の人口が今後減少することを考えると、街中に子供が行ける所があったほうが良いのではないのでしょうか。

文化会館内の施設を無くすということですが、街中の子供たちに触れる機会を無くすというのはいかがなものなのでしょうか。

回答：おっしゃられたことは今回の検討委員会の中でも挙がっています。

今回候補地に挙げているのは、現在富士宮市が持っている土地の中で使える土地で、

面積の条件を満たす場所を挙げています。

今後基本計画を検討する中で立地条件、交通の便等、子供たちにとって良い場所はどこか再度検討していきますので、まだ白糸自然公園に決まったわけではありません。ただ、使えそうなところをピックアップしたらその3か所だったという状況です。静かで勉強できる環境、子供たちが来やすい環境、遺跡の近く、そういった検討を重ねていきます。

大鹿窪遺跡に関しては、検討しましたが、国の（史跡）指定（地）になってしまうのと、建てる土地として取得しようとする農地法が立ちはだかり、現実的には難しいため候補には挙げておりません。

状況が変われば改めて検討も必要と思っています。

質問者⑥

質問：質問ではないので回答は不要です。

私は以前ふじのくに環境史ミュージアムで仕事をしていました。経験からすると、遠隔地に作った場合は運営に苦労します。我々の感覚では街中でも、来館者からは街中から遠い、子供たちが自分たちの足では行きにくい、という声がありました。

もう一つ、環境史ミュージアムは高校の跡地にできたのですが、高校を活用するという方法があるのではないかと思います。もう一つ、資料を見させていただいたのですが、今後具体的に計画を立てる中で、人を引き付ける売り、『どういう博物館なんだ』というこの博物館ならではの個性が必要になってくると思います。

回答：環境史ミュージアムについては、私も設立当時に動いていた団体のメンバーとして活動していましたので、その辺りの経緯は承知しております。

またご意見伺いながら検討していきたいと思っています。